

実践力を育てる学習展開の工夫

—第5学年「どきどきソーイング ミシンでぬおう」の実践を通して—

今治支部

1 研究の視点

- (1) 指導内容の系統性の明確化
- (2) 自己の成長を自覚できる評価の工夫

2 実践事例

(1) 題材名 「どきどきソーイング ミシンでぬおう」

(2) 目標

- 身の回りで使われている布を用いた物に関心をもち、ミシンを使って意欲的に製作しようとする。
- 製作計画、縫い方を考え、工夫して製作する。
- 製作に必要な用具やミシンを安全に扱い、直線縫いをすることができる。
- 製作に必要な材料や用具の取り扱い方や製作手順が分かる。

(3) 題材設定の理由

- 本学級の児童(男子12名、女子16名、計28名)の「家庭科学習に関する実態調査」は次のとおりである。
(平成27年7月15日調査)

調査項目	はい	いいえ
家庭科の学習は好きである。	26人	2人
縫い物は好きである。	20人	8人
1学期の小物作りは楽しかった。	21人	7人
家にミシンがある。	14人	14人
ミシンを使って何か作ったことがある。	4人	24人
ミシンを使って何か作りたい。	17人	11人
アイロンを使ったことがある。	13人	15人

調査の結果、家庭科が好きな児童が多い。その理由は、料理や縫い物などでいろいろなものを作ったり、グループで活動したりする中で、家庭で役に立つことを楽しく学習していくことに喜びを感じるところにあるようだ。1学期の「ソーイング入門 手ぬいをしよう」では、玉結び・玉どめ・なみ縫いなどができるようになり納得できるものができた児童は、裁縫の楽しさを味わうことができた。また、作った物を使う喜びや、教え合いながら仕上げていく楽しさ、家族が喜んでくれるうれしさも感じていた。しかし、やり方がなかなか理解できず、納得できるものができなかった児童は楽しさを感じることができなかった。本題材で使うミシンについては、家にある児童が半数程度で、ミシンを使ったことがある児童は少ない。このことから、手縫いで裁縫の難しさを感じた児童にとっては、ミシンを使ってみたいという意欲は低いようである。

- 本題材は、生活に役立つ物の製作を通して、裁縫用具やミシンの安全な取り扱い方を習得させるとともに、工夫して作る楽しさを実感させることをねらいとしている。既習事項の手縫いと新たな学習事項であるミシン縫いを用いてランチョンマットを製作する。ここでは、手縫いで装飾をするなどの工夫を取り入れ、ミシン縫いと手縫いを組み合わせた製作に取り組むことを通して、手縫いの技能の定着と向上を図るとともに、ミシン縫いの技能の習得が期待できると考える。さらに、自分が作った物を実際の生活に活用する中で、手作りのよさを感じたり、作り方を見直したりして、家庭生活をよりよくしていこうとする態度も育てることができる題材であると考えられる。
- 指導に当たっては、学習内容と指導事項の系統性を明確にし、基礎的・基本的な知識や技能が身に付くようにする。手縫いとミシン縫いの技能の定着と向上を図るために製作物は平面的なランチョンマットにし、手縫いを取り入れて自分なりの装飾を工夫できるようにする。製作においては、実物の見本や作業の手順などの視覚的資料を提示し、自分で作業できるように支援する。さらに、グループ内で教え合ったり、アドバイスしたりできるような雰囲気づくりに努め、家庭科専科教員と学級担任の2人で指導に当たることで、つまづきを解決できるようにする。また、

振り返りカードを使って、毎時間めあてについて振り返り、自分の学びを自覚し、達成感を味わえるようにしたい。

(4) 指導と評価の計画(全11時間)

小題材名	時間	評価規準・評価方法				指導しておきたい言語
		関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解	
ミシン縫いにチャレンジ	1	身の回りの生活に役立つ布を用いた物に関心をもっている。(発言・ワークシート)			ミシン縫いの特徴が分かる。(発言・ワークシート)	縫い目
	1			ミシンの安全な取扱いができる。(観察・振り返りカード)	ミシンの安全な使い方が分かる。(振り返りカード)	から縫い
	2	ミシン縫いに関心をもち、直線縫いをしようとしている。(観察)		ミシンを用いて直線縫いや返し縫いができる。(観察・チェック表・作品・振り返りカード)	ミシンの基本的な操作が分かり、直線縫いの仕方を理解している。(チェック表・作品・振り返りカード)	上糸 下糸 直線縫い 針目
計画を立ててつくってみよう	1	製作に必要な材料や用具を準備し、見通しをもって製作しようとしている。(観察)	製作するものやその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(製作計画表)		製作に必要な材料や用具が分かり、製作手順を理解している。(製作計画表)	縫い代
	5		ミシンを用いた直線縫いにより、目的に応じた縫い方について考えたり工夫したりしている。(観察・計画表・作品)	ミシンを用いた直線縫いで目的に応じたものを製作することができる。(観察・作品・振り返りカード)	製作に必要な用具の安全な取り扱い方を理解している。(観察・チェック表・振り返りカード)	布を裁つ しるし付け まち針 しつけ アイロン
	1	布を用いた物の製作を振り返り、製作したものを活用する喜びを味わっている。(報告カード)				

(5) 活動の実際

ア 指導内容の系統性の明確化

(ア) 小・中学校の学習内容と指導事項の系統表の作成と活用

Ｃ「快適な衣服と住まい」の中の(3)生活に役立つ物の製作について小・中学校5年間の学習内容と指導事項をまとめると次の表のようになる。

重点指導 関連指導	布を用いた物の製作																									
	指導事項	製作計画・製作手順・形などの工夫	布の特徴・材料の選択			裁断・しるし付け			用具の使い方	手縫い				ミシン縫い		布端の始末		その他の工夫								
			採寸	型紙	縫いしろの取り方	まち針の止め方	しるしの付け方	裁縫道具		アイロン	玉結び・玉どめ	縫い取り	なみ縫い	半返し縫い	木返し縫い	かがり縫い	しつけ	上糸・下糸	直線縫い	返し縫い	ピンキング	ジグザグミシン	ロックミシン	二つ折り	三つ折り	ポケット
小	(3)ア	(3)ア	(3)ア	(3)ア	(3)イ	(3)イ	(3)ウ	(3)ウ	(3)ウ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)ア	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ
学年	題材	小題材名	中	(3)ア	(3)ア	(3)ア	(3)イ	(3)ウ	(3)ウ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)ア	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ	(3)イ
小5	ソーイング入門 手縫いをしよう	針と糸にチャレンジ 楽しい小物作り		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
小5	どきどきソーイング ミシンで縫おう	ミシン縫いにチャレンジ 計画を立ててつくってみよう		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
小6	どきどきソーイングII 生活を楽しくする物	つくりたい物を考え計画ししよう 工夫してつくろう 楽しく使おう		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
中学校	生活豊かにする物の製作	製作の順序と要点 縫う前に知っておこう 楽しく作る		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							

この表から、学級担任と家庭科専科教員で本題材で特に重視する項目を明確にし、事前に見本のランチョンマットを製作した。(表中の囲んだ部分は本題材で特に重視する項目)

イ 自己の成長を自覚できる評価の工夫

(ア) 振り返りカードの活用

毎時間、めあてを明確にして学習に取り組ませ、振り返りをカードに書かせた(資料1)。内容はその時間のめあてについてできるようになったことやできなかったことなどを書くように指導した。そのことにより、児童は自分の成長を感じたり、次の課題を明らかにしたりすることができた。

また、この評価を次時の指導に役立て、視覚的資料(写真1)を提示して全体指導を行ったり、個別に支援したりした。家庭科専科教員と学級担任の2人で指導に当たることで、個に応じた支援を充実し、一人一人ができることを増やしていくことができた。

月/日	めあて	振り返りカード・気付いたこと	自己評価 (◎○△)
9/4	ミシンぬいのよさを 見つけよう	早くできる。 上いと、下せとめるので 強い。すばらしい!!	○
9/4	からぬいを しよう。	あまりますぐにできな い。ミシンを上手に使えた。 これから、まぶしが目標だね!!	○
9/7	上糸を正しく かけよう。	最初は、からまたりして、 おずかしなだけ。最後に は、上手にできたのでよかったです。	○
9/7	下糸を正しく まこう。	下糸は上糸よりも、おずかし なだけ。直線ぬいまで できたのでよかったです。めあてが かんがえられました!!	○
9/11	直線ぬいが できるようになる。	少し、すれたけど、前より かは上手にできてよか かったです。すばらしい!!	○
9/11	かえしぬいが できるようになる。	かえしぬいが、上手に できて、先生にほめてもら うことができました。自信が つきました!!	○

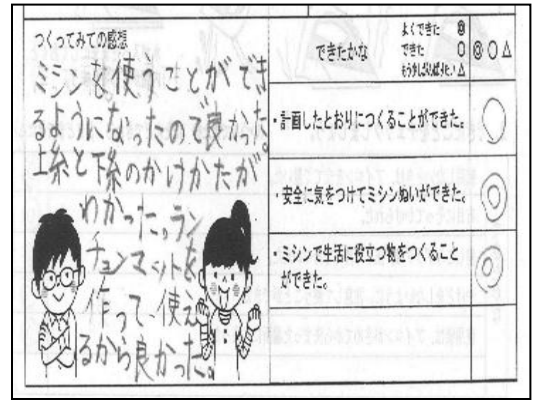
(資料1 振り返りカード)



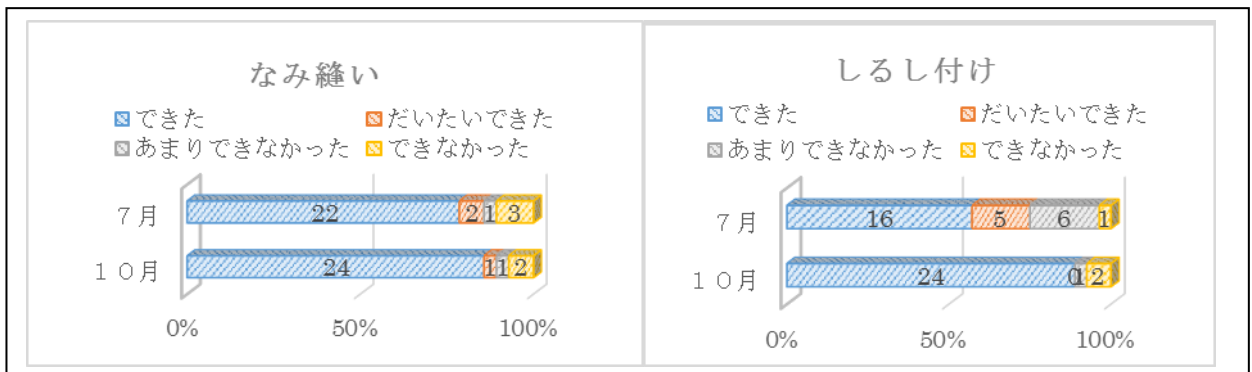
(写真1 視覚的資料の提示)

(イ) 自己の成長を自覚できる自己評価と相互評価

学習の終末に、感想を書いたり(資料2)、作品を紹介し合ったりして、自分ができるようになったことや友達のがんばりを認め合った。また、学習後に学習前と同じ項目で家庭科に関する技能と意識の調査をし、その変容を振り返った(資料3)。しるし付けやなみ縫いは1学期の小物作りの重点指導事項であったが、今回の学習を通して自己評価が高くなった。また、縫い物が好きと答えた児童は、71%から89%に、ランチョンマット(小物)作りが楽しかったと答えた児童は、75%から93%になった。ミシン縫いの難しさを感じる反面、できた喜びや使う楽しさを今回の学習で十分感じたようだ。手縫いが難しく楽しくなかった児童の中にも、「ミン縫いができた。思い通りの物ができてうれしかった。」と感想を書いている児童が数名いた。ミシンを使って何か作ってみたいと答えた児童は、61%から85%に増えた。家庭で自分の手提げ袋や家族のランチョンマットやシューズ袋、リコーダー入れを作った児童もいた。手提げ袋を作った児童は、毎日その袋を持って登校している。妹のリコーダー入れを作った児童は、「自分の袋はお母さんが作っていたので、妹の袋を作ったよ。」と言ってうれしそうに見せてくれた。



〈資料2 終末の振り返り〉



〈資料3 技能に関するアンケート結果〉

3 成果と課題

本題材では、指導内容の系統性を明確にすることにより、1学期の手縫いの反省から児童のつまずきに合った指導ができるように、毎時間振り返りカードを書かせた。製作の様子はもとより、その振り返りを見ることで、次時どの児童にどのように支援していけばよいかを考えて授業に臨むことができ、児童が困っていることに素早く対応することができた。2人の教師で指導したので、分からないことがある児童やミシンの不具合にも早く気づき、個に応じた支援やミシンの調整を適宜行うことができた。その結果、特にまち針の止め方やしるし付け、ミシン縫いの上糸や下糸のかけ方や直線縫いができるようになった児童が多かった。また、作品をランチョンマットにしたことで、作業が遅れがちな児童も「早く作って給食のとき使いたい。」と言いながら、最後まで意欲的に取り組むことができた(写真2)。しかし、リバーシブルのランチョンマットを選んだ児童が多く、5年生の実態から考えると、手縫いの工夫を入れることは難しかった。指導事項を考慮して教材を選ぶことの大切さを実感した。



〈写真2 給食の様子〉

自己の成長を自覚できる評価の工夫では、毎時間の振り返りや終末の感想から、自分の成長を確認することができた。今後さらに、自己評価カードの工夫や友達との評価交流についても研究していきたい。